資料・写真協力者及び提供者一覧（五十音順、敬称略）

○公共団体

阿見町予科練平和記念館、板橋区立郷土資料館、宇佐市教育委員会、大阪大学、大村市教育委員会、大村市立図書館、大村市立史料館、大村市立福重小学校、海上自衛隊大村航空基地、海上自衛隊鹿屋航空基地史料館、鹿屋市農林商工部商工観光課、厚生労働省社会援護局業務課、高知県立坂本龍馬記念館、国立科学博物館、国立研究開発法人水産総合研究センター増養殖研究所、国立公文書館、国立国会図書館、国立歴史民俗博物館、衆議院憲政記念館、仙北市立角館樺細工伝承館、飯能市郷土館、長崎県立大村高等学校、長崎原爆資料館、長崎歴史文化博物館、中野区、波佐見町教育委員会、防衛省防衛研究所、北海道大学大学文書館、北海道大学附属図書館北方資料室、靖國偕行文庫、陸上自衛隊大村駐屯地

○神社・寺院

正法寺、富松神社、氷川神社

○出版社・報道機関

大阪大学出版会、株式会社講談社、株式会社国書刊行会、株式会社新紀元社、株式会社都市製図社、株式会社長崎新聞社、株式会社日本図書センター、株式会社浜島書店、株式会社毎日新聞社、弦書房

○一般

愛合圓治、石尾和貴、一般財団法人野間文化財団講談社野間記念館、今富　栄、上野信敏、上野盛夫、瓜生田和孝、遠藤興一、大草光介、大久保惠子、大村市消防団第六分団、大村市南高人会、神近義光、川棚町新谷郷自治会、九州旅客鉄道株式会社長崎支社、旧第二十一海軍航空廠殉職者慰霊塔奉賛会、久田松和則、恵迪寮同窓会、公益財団法人東京都公園協会緑と水の市民カレッジみどりの図書館東京グリーンアーカイブス、西肥自動車株式会社、社会福祉法人瀧乃川學園石井亮一・筆子記念館、社会福祉法人光と緑の園、笹山トヨ子、田中　誠、田中　恵、長崎県立大村中学校第四十七～五十一回卒業生、長崎　毅、中村　稔、中村ますみ、永田貞子、原町町内会、福田誠之郎、平和祈念戦史資料館設立準備室、馬来丸戦没者慰霊碑建設委員会解散整理委員会、三菱重工

式会社長崎造船所史料館、松下貞義、宮田容子、村井敏郎、村嶋寿深子、明治学院歴史資料館、森本信一、山下常道、渡邊　敬

○編集協力者

大村市教育委員会

編さん関係者名簿（順不同・敬称略）

○大村市史編さん委員会委員

委員長　吉野　哲　大村市副市長
副委員長　田中　誠　大村市元助役
委員
有識者
後藤惠之輔　長崎大学名誉教授
脇田　安大　公益財団法人ながさき地域政策研究所理事長
髙塚かず子　長崎県教育委員会元委員長
福田　年子　長崎県立川棚高等学校元教頭
松尾　洋子　大村市教育委員会元委員
船橋　修一　九州教員株式会社代表取締役社長
溝江　宏俊　大村市教育委員会教育長
専門家
藤野　保　中央大学元教授
清水　紘一　中央大学元教授
満井　録郎　長崎県立大村高等学校元校長（～平成二十七年十一月九日）
梅田　和郎　長崎県立美術博物館元館長
久田松和則　大村市文化財審議会会長（富松神社宮司）
大石　一久　長崎歴史文化博物館元研究グループリーダー

○大村市史編集委員会委員

委員長　藤野　保　中央大学元教授
副委員長　久田松和則　大村市文化財審議会会長（富松神社宮司）
委員
松岡　數充　長崎大学名誉教授
阪口　和則　長崎県立大村高等学校元教諭
宮崎　正隆　長崎県立諫早高等学校元教諭
秀島　貞康　諫早市教育委員会文化課元参事
満井　録郎　長崎県立大村高等学校元校長（～平成二十七年十一月九日）
大石　一久　長崎歴史文化博物館元研究グループリーダー
清水　紘一　中央大学元教授
五野井隆史　東京大学名誉教授
半田　隆夫　福岡女学院大学生涯学習センター講師

柴多　一雄　長崎大学名誉教授
髙野　信治　九州大学大学院比較社会文化研究院教授
田中　誠　大村市元助役
梅田　和郎　長崎県立美術博物館元館長
杉谷　昭　佐賀大学名誉教授
長野　暹　佐賀大学名誉教授

○第四巻　専門部会

近代部会

部会長　久田松和則　大村市文化財審議会会長（富松神社宮司）

委員　杉谷　昭　佐賀大学名誉教授
長野　暹　佐賀大学名誉教授
吉田　洋一　久留米大学文学部国際文化学科准教授
徳永　武将　平和祈念戦史資料館設立準備室室長

○第四巻　執筆者

近代編

久田松和則　大村市文化財審議会会長（富松神社宮司）
杉谷　昭　佐賀大学名誉教授
長野　暹　佐賀大学名誉教授
清水　紘一　中央大学元教授
森山　信孝　大村史談会会員
熊野　道雄　大村史談会会員
森崎　兼廣　大村史談会会員
吉田　洋一　久留米大学文学部国際文化学科准教授
徳永　武将　平和祈念戦史資料館設立準備室室長
盛山　隆行　大村市総務課市史編さん室嘱託員
佐原　貴子　大村市総務課市史編さん室嘱託員

○監修者

全巻

久田松和則　大村市文化財審議会会長（富松神社宮司）

柴多　一雄　長崎大学名誉教授

第四巻（近代編）

久田松和則　大村市文化財審議会会長（富松神社宮司）

○大村市総務課市史編さん室

室長　大野　安生

係長　有川　大輔（平成二十七年四月一日～九月三十日）

職員　片岡　慶子（平成二十七年十月一日～）

嘱託員　佐原　貴子　第四巻担当

盛山　隆行　第四巻副担当

あとがき

大村地方の歴史を概観すると、中世から近世への移行期に大村純忠という人物が登場し、日本史上に大きな足跡を残した。また江戸時代から近代への転換期にも、大村藩はまたもや大きな役割を演じた。

本編第四巻は、大村が近代国家の国づくりに果たした役割、そして近代国家下で再編された大村という地域社会での歴史の展開、その八〇年余を詳論した。執筆者一〇名で専門分野を担当し、巻末の「近代に活躍した大村の人々」「戦争体験記録」は、市史編さん室事務局が担当した。

二七〇年間続いた江戸幕府を打倒するには、莫大なエネルギーが必要であった。大村藩はその一翼を担った。そのために明治維新後はかつての大藩なみの待遇を受け、新しい国づくりに活躍した多くの大村人が、明治新国家の要人となり更には新国家建設に励んでいった。この分野は蓄積された先行研究を丹念に整理し、加えて維新時の大村藩の兵器調達、長崎裁判所と三治制、浦上信徒配流事件、版籍奉還と廃藩置県など、今までやや薄層であった部分をより明らかにした。

明治という時代の到来によって、殊に産業・教育・交通通信は大きく発展していく。この分野も多彩な史料を駆使して大村地方の歩みを詳しく述べた。

城下町としての機能をもった現大村市域は、廃藩置県によってその行方が危惧されるなか、陸海軍の駐屯、海軍航空廠の開設によって軍事機能を備える地方都市として生まれ変わっていく。その都市機能は昭

和二十年をもって終わるが、それより七〇年、人々の記憶から遠のくほどの年月が経過した。この節目の年に戦前の大村の都市機能を整理するのも意義あるものと考える。

巻末には近代に活躍した大村人二〇人を抽出したが、郷土の人物伝という愛着から我田引水に陥ることなく、客観的、正確な史料によって各人物像を浮き彫りにした。

現代の社会構造は本編で明らかにした近代以降の歴史が根幹となっている。この点からも本編が大方の手に取られることを期待したい。

本編編さんに当たり史(資)料や図版の提供をいただいた関係各位には、衷心より御礼を申し上げたい。

平成二十八年三月

近代部会長　久田松　和則

新編 大村市史 第四巻 近代編

平成二十八年三月三十一日　発行

編　集　大村市史編さん委員会
発　行　大村市
〒八五六―八六八六
長崎県大村市玖島一丁目二五番地
電　話　〇九五七―五三―四一一一（代表）
制　作　株式会社　ぎょうせい
〒一三六―八五七五
東京都江東区新木場一丁目一八―一一
電　話　〇三―六八九二―六六六六
印　刷　㈱康真堂印刷
〒八五六―〇〇一六
長崎県大村市原町四六七―一二
電　話　〇九五七―五五―〇三七一